

飯舘村までいな復興計画

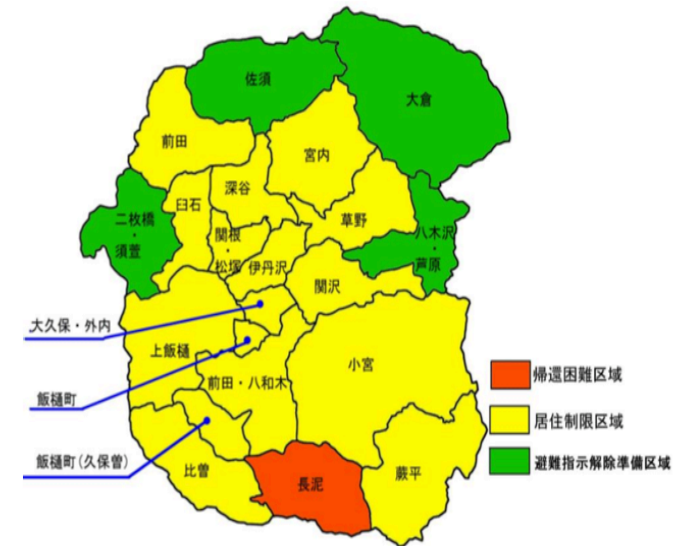
○ 鈴木 心也*・今井 美里*・今福 貴子*・倉本 潤季*・平林 凌太郎*
・武藤 静*・糸永 順子**・溝口 勝*・林 直樹*

*東京大学大学院農学生命科学研究科・**東京大学大学院学際情報学府

背景

福島原発事故から3年半が経過…

- 2012年7月 計画的避難区域の分割により一枚岩として動いていた村がバラバラになりつつある
- 60, 70代の村民を中心に「世代飛ばし」の帰村も提案されている
- 先が見えない避難生活

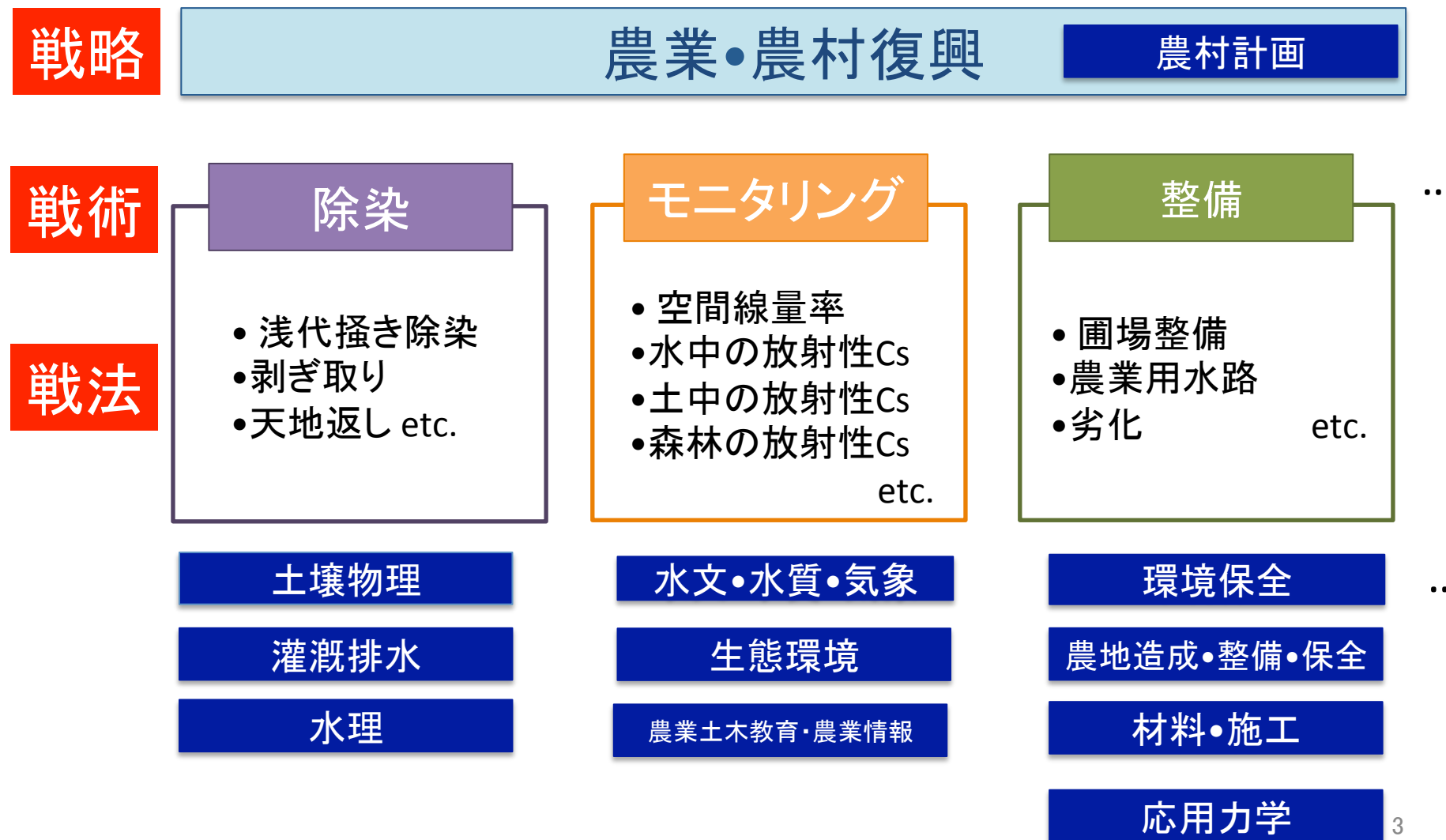


飯館村計画的避難区域

飯館村ホームページより (2012/10/1)

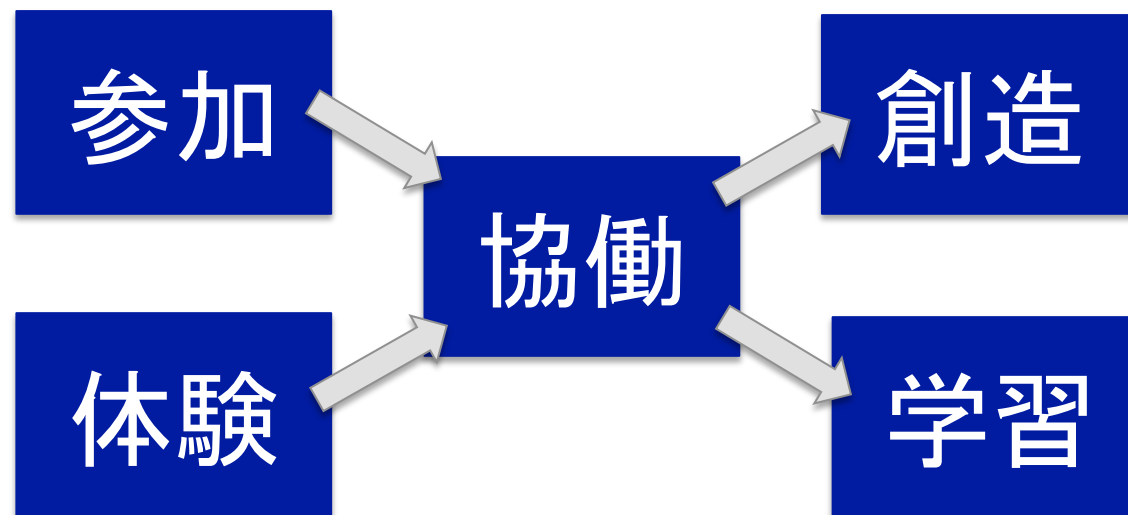
俯瞰的な視点、中長期的計画が不可欠である

原発事故からの復興における農業農村工学会の役割



ワークショップとは？

多様な人たちが主体的に参加し、
チームの相互作用を通じて新しい創造と学習を生み出す場



ワークショップ構成

東京大学大学院農学生命科学研究科 農学国際専攻「農学国際特論Ⅰ」

国際農業開発学コース (IPADS) English

農学国際専攻 東京大学 大学院農学生命科学研究科
Department of Global Agricultural Sciences

理念・ビジョン スタッフの紹介 学生の方へ イベントについて OBの方へ

農学国際専攻は、農学が本来有する総合力を生かした教育・研究をすすめて、人類の生存を支える食糧生産と生物圏の保全を基盤とした、安全で豊かな社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的としています。そのため、「課題志向性」、「学際性」、「国際性」に重点をおいた教育・研究を行います。また、最新の研究成果を反映させた適切なカリキュラムを編成するとともに、教員と学生が一体となって研究の推進を図ります。

*** 私達を知ってもらうために**

- STEP 1 理念を見る
- STEP 2 教職員を知る
- STEP 3 講義・入試について知る

*** OBの方へのメッセージ**
同窓会情報

最新情報

- 2014.05.09 updated 入試情報を更新
- 2014.03.05 updated 入試ガイダンス情報を更新
- 2014.02.14 updated スタッフ情報を更新
- 2013.04.25 updated 入試ガイダンス・入試情報を更新
- 2012.11.02 updated 海外研修情報を更新
- 2012.04.25 updated 入試ガイダンス・入試情報を更新
- 2012.04.06 updated 海外研修情報を更新
- 2011.05.09 updated スタッフ情報を更新
- 2011.04.19 updated 入試ガイダンス・入試情報を更新
- 2011.03.28 updated 同窓会だより更新

東京大学ソーシャルICTグローバル クリエイティブリーダー育成プログラム 「ワークショップ B」

平成24年度 博士課程教育リーディングプログラム English サイト内検索 検索

東京大学 ソーシャルICT
グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム

ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラムは、情報理工学系研究科、情報学環・学際情報学府、工学系研究科、農学生命科学研究科、農学系研究科、教育学研究科、法學及政治学研究科からなる東京大学の7研究科による合同プロジェクトです。

ホーム GCLについて GDWS GCL TechTalk シリーズ インターンシッププログラム GCLニュースレター GCLラボ・工房 GCLカレンダー お問い合わせ・アクセス よくある質問 (FAQ) 求人情報 リンク

情報理工学系研究科
コンピュータ科学専攻
数理情報学専攻
システム情報学専攻
電子情報学専攻
知能機械情報学専攻

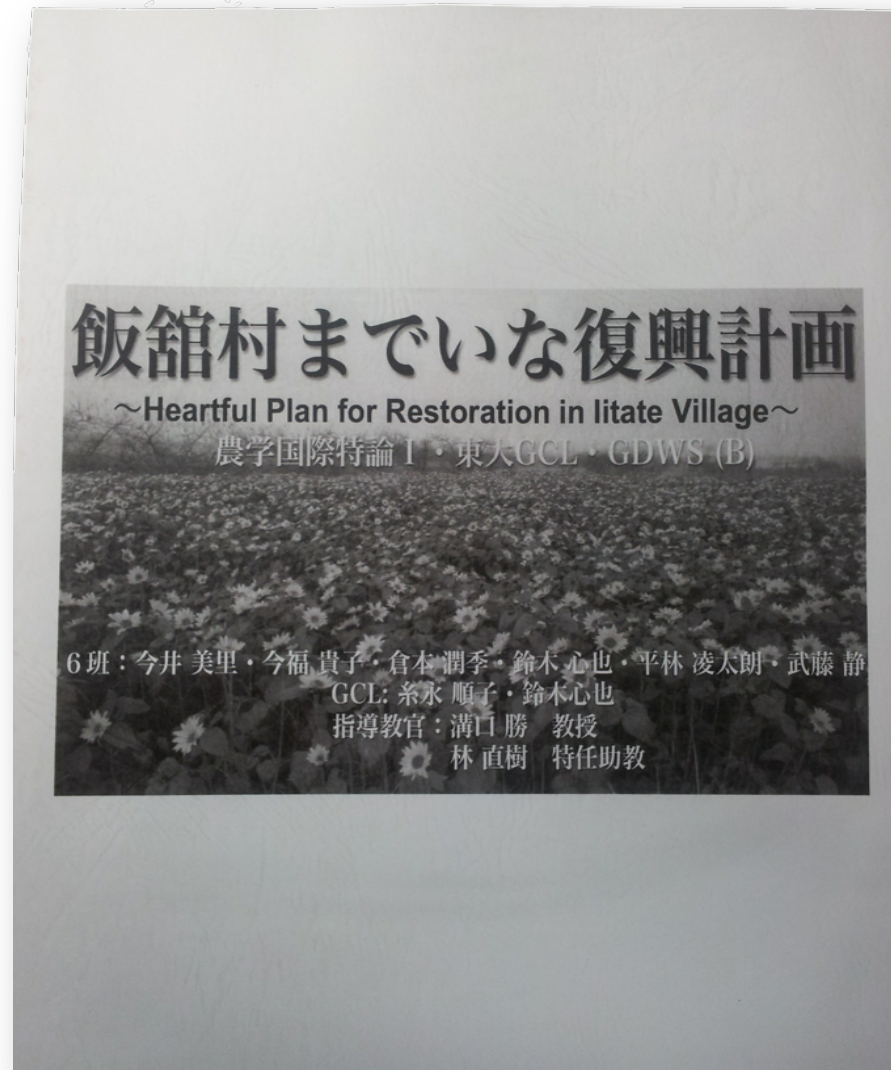
お知らせ

- 2014/9/7-8 GCL合宿について
- 2014/08/18 ACM ACE2014 常同学生(M1)の募集について
- 2014/08/18 ACM UIST2014 常同学生(M1)の募集について
- 2014/08/18 海外短期インターンシップ募集
- スタンフォード大学&シリコンバレーなどを訪問するGCLコース生の募集は終了しました
- 2014/08/04 インターンシップ・ガイダンス (学生向け)
- 2014/07/31 平成27年度 コース3年次 (博士課程1年相当) 編入募集 (第1回) (2014/07/31正午必着)
- 2014/07/24,30,8/1 GCL M2(+D1)プレゼンコンペ...コメントシートを掲載しています!

GCL TechTalk シリーズ

保護中: (準備中)第1回 Tea Time Hackathon -東京大学女子学生参加者募集! (10月31日締切)

『までいな復興計画』



目的

実施した聞き取り調査に基づき、
飯舘村の復興に対する着眼点を明らかにする



方法

- ◆ 2013年11月29, 30日
- ◆ 飯舘村および伊達市
- ◆ 飯舘村出身者(20, 30代の男女 3名、60, 70代の男性 3名)に自由形式で聞き取り調査を実施した

* 20, 30代と60, 70代と別々に行った⇒本音

- ◆ 得られた聞き取り調査の内容を、3つに分類した

- ① 震災前の飯舘村
- ② 現在の飯舘村と自身を取り巻く状況
- ③ 将来の展望

*調査結果は11/29, 30付けのもの

ワークショップの様子

20, 30代



2013/11/29: 飯舘村佐須公民館

2013/11/29: 伊達市 つきだて花工房



60, 70代

①震災前の飯舘村

インフォーマント No.	内容(一例)
1 (20代, 女性)	通学路など自然が遊び場
2 (20代, 男性)	大部分の人の職場は村外にあった 飯舘村の過疎や少子化は深刻な問題 かがみ石が有名
3 (30代, 男性)	「自然の中の暮らし」 手間をかける生活の良さ 自然が飯舘の宝
4 (60代, 男性)	自然が生活の一部で、マタタビ・キワダなどは漢方薬
5 (60代, 男性)	過疎の村だった 農業の生産性は低かった 飯舘には時間、ゆとりがあった
6 (70代, 男性)	地域内の結束が強かった 農業一本で生活できたが、過疎や賃金の問題で農業形態も変化 若い人が外から給料を取ってきて、年寄りが百姓 村の65戸はみんな山津見神社の氏子 若い人が祭りを主催

①震災前の飯舘村

インフォーマント No.	内容(一例)
1 (20代, 女性)	通学路など自然が遊び場
2 (20代, 男性)	大部分の人の職場は村外にあった 飯舘村の過疎や少子化は深刻な問題 かがみ石が有名
3 (30代, 男性)	「自然の中の暮らし」 手間をかける生活の良さ 自然が飯舘の宝
4 (60代, 男性)	自然が生活の一部で、マタタビ・キワダなどは漢方薬
5 (60代, 男性)	過疎の村だった 農業の生産性は低かった 飯舘には時間、ゆとりがあった
6 (70代, 男性)	地域内の結束が強かった 農業一本で生活できたが、過疎や賃金の問題で農業形態も変化 若い人が外から給料を取ってきて、年寄りが百姓 村の65戸はみんな山津見神社の氏子 若い人が祭りを主催

- 産業としての農業が空洞化していた可能性 (赤)
- コミュニティとしてのつながりが強かった (青)

②現在の飯舘村と自身を取り巻く状況

インフォーマント No.	内容(一例)
1 (20代, 女性)	家や土地の結びつきが大事 除染の意味が見いだせない
3 (30代, 男性)	帰る人と帰らない人で気を遣い合っている 帰りたい祖母と帰りたくない母の意見の相違 除染や帰村の具体的な方向性がない 見えないものへのストレス、土をいじりたい、学者不信
4 (60代, 男性)	生き甲斐の喪失 村民の声を聞かずに除染し、寄り添った形になっていない 仮置き場が優良農地で、戻ろうとしても意欲がわいてこない 現場を知ってほしい ひとりひとり、心や考え方は違う。それをどうフォローしていくか。
5 (60代, 男性)	よい田んぼの上に汚染土壌を積み上げている みんな自分の考え、行き先を見失ってしまった 若者は避難が長ければ長いほど避難先が便利に思える
6 (70代, 男性)	帰村するかどうかは年齢によっても違う 村に戻って生活したいという気持ちも薄れつつある 便利な所に避難しており、不便な村でやっていけるか不安

②現在の飯舘村と自身を取り巻く状況

インフォーマント No.	内容(一例)
1 (20代, 女性)	家や土地の結びつきが大事 除染の意味が見いだせない
3 (30代, 男性)	帰る人と帰らない人で気を遣い合っている 帰りたい祖母と帰りたくない母の意見の相違 除染や帰村の具体的な方向性がない 見えないものへのストレス、土をいじりたい、学者不信
4 (60代, 男性)	生き甲斐の喪失 村民の声を聞かずに除染し、寄り添った形になっていない 仮置き場が優良農地で、戻ろうとしても意欲がわいてこない 現場を知ってほしい ひとりひとり、心や考え方は違う。それをどうフォローしていくか。
5 (60代, 男性)	よい田んぼの上に汚染土壌を積み上げている みんな自分の考え、行き先を見失ってしまった 若者は避難が長ければ長いほど避難先が便利に思える
6 (70代, 男性)	帰村するかどうかは年齢によっても違う 村に戻って生活したいという気持ちも薄れつつある 便利な所に避難しており、不便な村でやっていけるか不安

- 除染に対する不満 (赤)
- 帰村する人、帰村しない人における不和 (青)
⇒ これらの問題を解決する場がない

③将来の展望

インフォーマント No.	帰村に関する村民意識	村の未来像に関する村民意識
1 (20代, 女性)	今すぐ帰りたい	動物を保護したい
2 (20代, 男性)	避難区域解除後、 1年以内に帰村したい	麻の利用(産業用+バイオ燃料) 企業に村に来てほしい 中山間域のモデルになる村づくり
3 (30代, 男性)	家庭を持つことを考えると、 すぐには帰村できない 帰る人も帰らない人もお互いに 思いやること	復興には除染の完了が不可欠 自分達がやりたいと思える選択肢
4 (60代, 男性)	みんなで戻りたい 「世代飛ばし」で帰村 帰村する人としらない人も気持ちを 理解すること	ハウスで野菜をつくる 新しい地域づくりが必要
5 (60代, 男性)	来年にも帰りたい	花をやりたい 高齢者をターゲットとした観光型農業 の実施
6 (70代, 男性)	若い人の無理な帰村な望まない おそらく若い人は帰村しない 早く帰りたい	村内の雇用の創出 農業+企業誘致 花卉

③将来の展望

帰村に関する村民意識

- 帰村する人、または帰村しない人について、飯舘村に住んでいた年数では説明できない
- 30代では、子どもへの安全性の配慮により、なかなか帰村できないと考えられる
⇒世代や家庭の有無によって違いが見られた

『現状では飯舘村は子どもと暮らせる環境でない』に76.6%が『はい』と回答

(飯舘村放射能エコロジー研究会, 2012)

『子どもを抱えていると放射能に対して、危険派に偏りがちである』(東京大学, 2012)

村の未来像に関する村民意識

- 飯舘村主導で多様な産業を実施していきたい
 - 麻産業＋バイオ燃料
 - 観光型農業
 - 企業誘致etc.
- 村民の土地への愛着強さが見られた



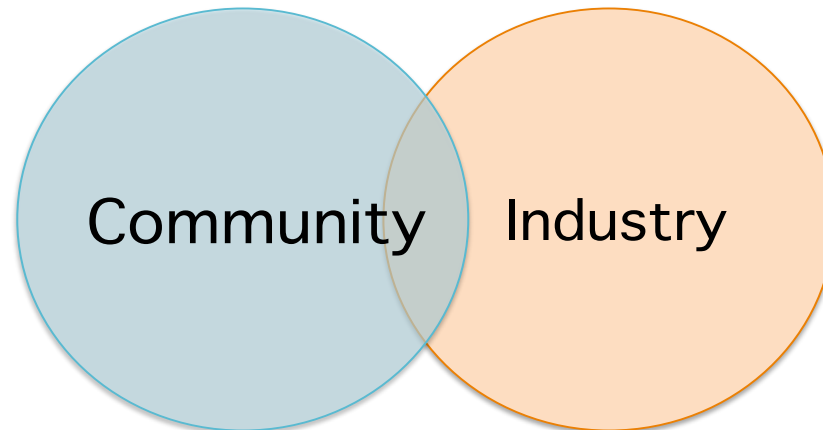
飯舘村『までいな復興計画』提案

コミュニティ

- ◆ 拡大飯舘村
 - 帰村する人/しない人も「拡大飯舘村」のメンバーとしてつながりを復興
 - e.g.
ライブカメラ映像の充実とデバイスの拡充、ふるさと納税

産業

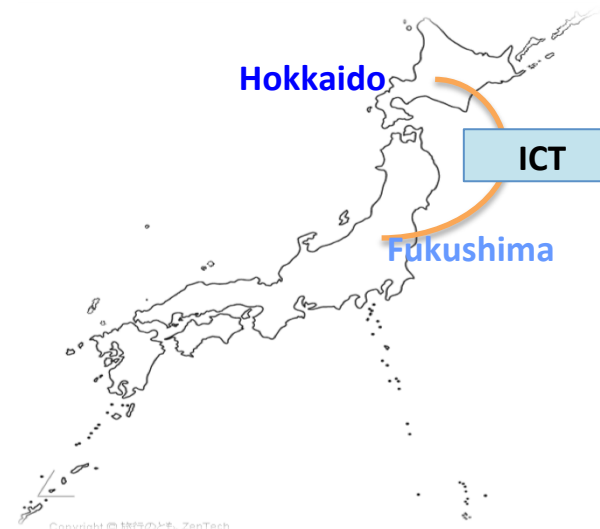
- ◆ 第一次産業: 北海道に新飯舘村の設立
- ◆ 第二次産業: 電力特区開設と工場誘致
e.g. 部品工場, 植物工場
- ◆ 第三次産業: 1, しいたて復興の灯りPJ
2, 山津見神社再建+祭りPJ



「コミュニティの維持」と「産業の育成」の両側面からの解決が必要！

まとめ

- ◆ 世代ごとに意見にばらつきが見られ、
飯舘村としてのつながりの失いが危惧される
- ◆ 村民がある程度分散した状態においても、
コミュニティを維持していく仕組みが必要である
- ◆ 農村計画的視点から、中長期的なビジョンも考慮しつつ
実施することが重要である





謝辞

本研究は、飯舘村および認定NPO法人^①くしま再生の会のご理解とご協力を得て実施された。

また、東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻「農学国際特論Ⅰ」、東京大学ICTソーシャルグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム「ワークショップB」の取り組みとして実施した。



ご清聴ありがとうございました。

